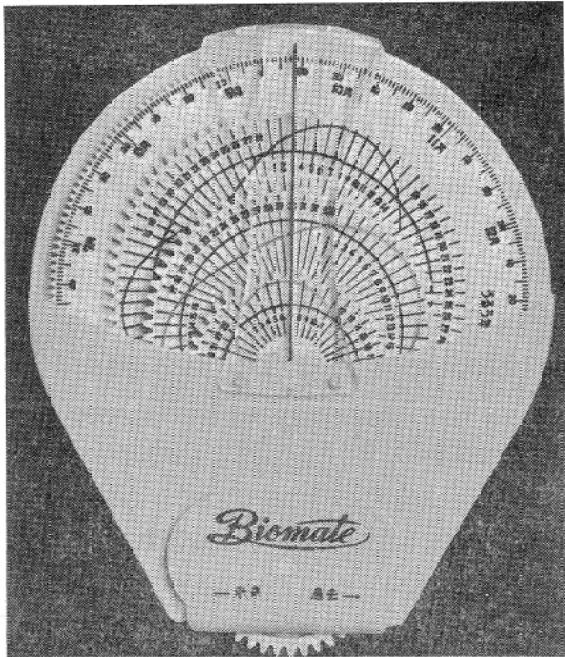


バイオメート

大阪大学工学部工作センター 政 木 和 三



○ 生命のリズム

人間の肉体的、感情的な変化の周期をバイオリズムと称し、1890年ごろから多くの医学、心理学の専門家によって研究が行なわれてきたがその理論が確立し最近では国鉄、私鉄バス会社等の労務管理に利用されている。

バイオリズムの基点は胎児が胎盤との交流を断ち切られ、循環器系統が新しい回路に切り替えられた瞬間から、神経組織、脳組織および筋繊維の細胞の三つの異なったりズムが発生し、生涯それが続くものである。

その三つのリズムを簡便に曲線で示すようにしたものがバイオメートである。

バイオリズムの研究に関しては多くの著書があり、初期にウィーン大学教授ヘルマン、スウォボダ氏が心理学の立場から生命と人間のリズムの研究を行なっていたころ、ベルリンの開業医で後にドイツ科学アカデミー会長になったウ

イルヘルム、フリーズ医師によって、小児科、婦人科の分野で多くのデータが集められた。

そして筋肉、筋繊維に関係のある身体のリズムは23日で、神経組織によって左右される感情のリズムが28日であることが明らかになった。

(1910) さらにアルフレッド、テルチャー工博は1920年にオーストリーンスブルックで多数の大学生、高校生に能力テストを実施し脳細胞にも周期のあることを発見した。

またペルシルバニア大学のレックスフォードハーシーとマイケル、ジョンベネットの両氏も多くのテストによって脳細胞の周期が33日であることを知った。

このようにして1880年から約80年間に多くの人々の研究によって、生命のリズムとしてのバイオリズムの基礎がかためられた。

○ バイオメート

今日の自己の身体、感情、および知性のバイオリズムを知るには、生れた日から本日までの日数を、23、28、および33で割りその残り数によって知ることができうるが、うるう年等があって日数の算出が繁雑である。

米国バイオリズム協会の G. Thommen 氏等は三種類の数表を用いて各月の第1日目のバイオリズム曲線の位置を算出し、1か月分のバイオリズム曲線をチャートに書くようにしているが、毎月1回の作図が必要であり数表の見誤りによる誤差も発生するようである。

ここにおいて数表も計算も不要で3個の円板を合わせるだけで1年間のバイオリズムを表示するようになったものが、バイオメートである。

写真はバイオメートを示すもので外周の円板は日付板で1月1日から12月31日までが記入しており、第2の円板は感情曲線を示すもので周

期は28日となっている。

第3の円板は知性のリズムで脳細胞の周期を表示し、第4の円板は身体の曲線を示すものである。

曲線がゼロ線より上にある場合はプラスであらゆる点で好調とされており、ゼロ線から下にある場合はマイナスで休息期となっているから無理をしてはいけない時期となっている。

曲線がゼロ線と交っている日は特に不安定で要注意日となっている。

○ 女性とバイオリズム

女性においては感情曲線の下り側のゼロ点と身体曲線の上り側のゼロ点が重なった日に生理が始まることを筆者がドイツおよびフランスに帯在中に発見した。

その後産婦人科医の協力を得て調査したところ前記の日に生理の始まる婦人は約85%で残りの15%の婦人はスポーツウーマンか、感情のはげしい婦人か女優さん等で、それぞれ定まったリズムの場所から生理が始まることわかる。

身体曲線がプラス側にあるときは女性の血液はアルカリ性を呈するので、その時期に妊娠すると男子で、バイオリズム曲線がマイナス側にあるときは酸性になるために女子を受胎するものでその確率は約97%となる。

出産予定日がわかればそれから逆算して受胎日の身体のリズムを知ることによって男女の性別判定が可能である。

○ 受験生とバイオリズム

本年と昨年3月の大学入試の受験生のバイオリズムと体調の関係を調べた。両年共に受験日に欠席した者は全員が身体曲線か感情曲線のどちらかがゼロまたはマイナスとなっており、風邪をひいたか腹痛のためではないかと思われる欠席者の中には一名も長好なバイオリズムを有するものはなかった。

次に受験してはいるがキョロキョロしたり、あくびをしたり、眠むそうにしている者を調べると全部が知性（脳細胞）のリズムがゼロの

者であった。

毎年定まった日に入学試験が行なわれているが、その日が自分の悪い日であれば、いかにしてそれを打破するかが大きな課題となるであろう。

○ 交通事故とバイオリズム

昭和46年度の警視庁関係の発表によれば、幼児の死亡事故において、加害者か被害者のどちらかが要注意日であったものが97%にも達している。このような調査は他の県警においても行こなわれている。

大阪大学の職員の中で最近事故のあった人を数人調べてみると三重の要注意の人が1名と他は二重の要注意の者であった。

記憶も新しい全日空機と空中接触をした自衛隊機の市川二等空曹は事故当日三重の要注意日であった。このような日は判断力、記憶力が悪く身体の反射神経もにおくなっているためにあのような大事故となったものと思われる。

自動車を運転する人は自分のリズムを知って悪い日には特に注意し全てを控え目にすれば事故を未然に防ぐことができるものと思われる。

○ 科学的な相性

人間と人間の交際においてお互いのリズムが合っておればいつまでも仲よくやっつけられるものである。夫婦においては感情のリズムが50%合っている場合は、いつまでも新婚の気持が続き、身体のリズムは100%に近い方がよいことは当然のことである。

熱烈な恋愛結婚をした二人が別れなければならない原因に身体のリズムが4%しか合っていなかったという実例もある。

結婚後に悲しき運命におちいるより結婚前にバイオリズムによって科学的に相性率が何%かを誑べることによって幸を開くものである。

○ 自分を知る

今日はついている日だから、今日は全てが裏目に出る日だとか人は言っている。

自分の身体の調子が年中同じであると思って

生産と技術

いるからそのような言葉がでるものである。

ゴルフのコンペ当日に自分のバイオリズムがわかっているとそれに合せてプレーを行なえば好成績を得るものである。リズムの好い日は思う存分のプレーをすればよく、特に悪い日は力を半分以下にして、控え目のプレーをすればスコアはまとまるものである。

その他ギャンブル、ビジネス、勉強等にも応用できる。特に若者を叱るとき、説教をするときは自分のリズムが特によくないと逆効果となる。スポーツマンは自分のリズムに合わせた練習とスタミナの配分を考えねばならない。

昨年某プロ野球で先発投手をバイオメートで選定したことがあった、その球団は緒戦に連敗して最下位にあったが、バイオメートによる先発投手の決定後は、7連勝して次に1敗したが後11連勝を果たした。

私達は自分の身体と精神が好調の時期か否かを知る者は少ないだろう。自分は常に同レベルにあると思いついでいるが、大きなリズムに乗っていることを忘れてはならない。

自分をよりよく知り

自分をよりよく制御すべきである。